

## 令和 5 年度に係る業務実績評価書（素案）に対する意見等

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
<b>第 3. 研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項</b>	
1. 環境研究に関する業務	
評価書(案)掲載箇所： 16ページ	<p data-bbox="525 573 544 595">—</p> <p data-bbox="525 613 1382 808">持続可能地域共創プログラムや災害環境研究プログラムのように、体系化が難しい分野もあるなか、プログラム平均で高い外部評価を維持している。人員に限られる中、例えば、持続可能な交通手段の確保については、交通政策系の研究所との連携等、環境分野を超えた連携強化が期待される。</p> <p data-bbox="525 831 1382 904">いずれの分野においても高い水準での研究成果が得られており、高く評価する。</p> <p data-bbox="525 927 544 949">—</p> <p data-bbox="525 967 1382 1077">いずれの取り組みも研究成果という点で高く評価できます。成果だけでなく、国際的な研究動向の中での位置づけや、研究の発展性や展望、それを実現するための次年度計画も含めた評価ができると良いと思います。</p> <p data-bbox="525 1140 1353 1211">総合的にみて、業務の着実な推進、多くの成果の創出が見られ、高く評価できる。項目別評価 A を支持する。</p> <p data-bbox="525 1234 544 1256">—</p>
1.(1)重点的に取り組むべき課題への統合的な研究の推進 評価書(案)掲載箇所： 44ページ	<p data-bbox="525 1267 544 1290">—</p> <p data-bbox="525 1308 1366 1375">測定困難PFASの定量法開発等、時宜の政策課題に応じた新たな特筆すべき成果が認められる。</p> <p data-bbox="525 1391 1382 1487">外来アリ類の防除の実装の事例は、一般消費者にとってもわかりやすい「社会実装」の例であると考え。こうした成果を広報活動に積極的に生かしてはどうか。</p> <p data-bbox="525 1547 1382 1644">「外部研究評価」の相対的な評価点の違いが気になる。定量化のための評価項目に、当該分野の特性が十分に反映されないケースもありうると思われる。数字の独り歩きにならないように留意されたい。</p> <p data-bbox="525 1666 1382 1771">いずれの重点的課題においても質の高い研究を推進している。特に気候変動・大気質研究プログラム、物質フロー革新プログラムなどの研究は、国際的にも高い評価を得ている。</p> <p data-bbox="525 1789 1382 1928">いずれのプログラムも着実に研究が進められ成果が得られていることが評価できる。気候変動・大気質研究プログラムにおけるメタンのボトムアップ手法によるメタン収支評価は国立環境研究所の最も優れた研究の一つであり、国際的にも注目される成果が出ていることが高く評価できる。</p>

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
	<p data-bbox="523 219 1382 450">本カテゴリを構成する研究プログラムの全てにおいて、順調に成果を挙げており評価できる。それらの中には、現状の課題の解決に資するための研究に加え、例えば、カーボンニュートラル社会の実現と鉄鋼生産量の関係において、技術革新の進展がなければ大きな社会問題が発生するという予測を示し、人類が達成すべき目標を示唆するなど、この分野の研究をリードする機関として、極めて有用な成果を挙げている。項目別評価Aを支持する。</p> <p data-bbox="1401 219 1426 241">9</p> <p data-bbox="523 461 539 483">—</p>

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
<p>1.(2)環境研究の各分野における科学的知見の創出等の推進</p> <p>評価書(案)掲載箇所： 67ページ</p>	<p>10 災害環境分野において、能登における地震災害への貢献は、どのような内容だったのでしょうか？ P64に少し書いてありますが、東日本大震災で積み上げてきたこれまで国環研の研究成果や情報プラットフォームが具体的にどのように活かされたのか、説明をお願いします。</p> <p>音声モニタリングが適用できる分類群を教えてください。また、人為的な騒音の影響はどのように回避できるのでしょうか？</p> <p>湖沼によってセシウム濃度の減少速度が異なる理由は何でしょうか？</p> <p>11 基礎・萌芽的研究から政策貢献・社会実装に至るまで、さまざまなレベルで、着実な成果が認められる。また、例えば、PRTR届出データの正確性（信頼性）評価は資源循環分野に位置付けられているが、環境リスク・健康分野にとっても重要な視点を提供しており、横断的な成果が現れている。</p> <p>—</p> <p>12 知的研究基盤整備においてもユニークな取組が計画されており、特に海洋モニタリングの成果に期待いたします。</p> <p>スライド44にも記載されているように「社会実装の高度な実現を見据えた」取り組みは大変重要で、1.（4）につながることを期待します。</p> <p>13 いずれのプログラムも着実に研究が進められ成果が得られていることが評価できる。先験的・先端的な基礎研究については、社会的関心の高い環境問題に対してAIの導入も含めタイムリーな取組みにより優れた成果が得られており評価できる。知的研究基盤整備では、船舶による大気・海洋モニタリング体制の充実がなされ、高く評価される。</p> <p>14 多岐にわたる基礎研究を推進し、着実な成果を挙げている。また、国環研が保有する試料を使用して民間企業が新しい微細藻類を開発するなど、地道な業務が大きな成果を挙げることを示したことは特質される。項目別評価Aを支持する。</p> <p>15 改訂された40枚目も、よく理解できなかった。</p> <p>「滋賀県との共同による、温度変化による琵琶湖の底泥酸素消費量の影響調査」が、なぜ「安全確保領域」だけと結ばれているのか。</p> <p>近いのは気候変動、自然共生ではないか。</p>
<p>1.(3)国の計画に基づき中長期目標期間を超えて実施する事業の着実な推進</p> <p>評価書(案)掲載箇所： 78ページ</p>	<p>—</p> <p>16 エコチル事業については、継続手続方法の工夫等、高い参加率を維持するための細やかな工夫がなされている。参画研究者以外のデータの活用促進は、国際連携・貢献にとっても重要な課題。</p> <p>—</p> <p>17 いずれも順調に高いレベルでの研究が遂行されていると評価します。エコチル研究は、遺伝子解析などが始まり、今後新たな解析結果が期待されるとともに、遺伝カウンセリングなどの必要性も生じます。その点の体制はいかがでしょうか。</p> <p>18 いずれのプログラムも着実に研究が進められ成果が得られていることが評価できる。GOSAT, GOSAT-2の統合利用に必要な両者の整合性研究が行われ、公開されたことは高く評価できる。</p>

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
	<p>衛星観測に関する事業ならびにエコチル調査事業の両者とも、継続的かつ精力的に取り組むとともに、着実な研究の進捗が見られ評価できる。また、エコチル調査事業については、さらなるデータの活用を図るために参画研究者以外のデータの活用や国際連携等に向けた準備が進められており、今後に大きな期待が持てる。項目別評価Aを支持する。</p>

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
<p>1.(4)国内外機関との連携及び政策 貢献を含む社会実装の推進</p> <p>評価書(案)掲載箇所： 102ページ</p>	<p>－</p> <p>「気候市民会議つくば」の設計と運営は興味深い試み。74件の提言内容の分析等 20 があると、波及効果が高まるのではない。</p> <p>－</p> <p>大変多くの環境政策への貢献数が報告されていますが、国内と国際的なものに区 21 別可能でしょうか（今後の検討で構いません）。</p> <p>環境研究の中核研究機関として、国内外の連携研究が多数進められており評価で 22 きる。それは論文の5割近い国際共著率からもうかがえる。</p> <p>環境研究の中核機関としての役割を果たすべく、国内外機関との連携の推進、成 23 果の社会実装を精力的に進めており評価できる。研究業績に対する受賞数も前期 中長期目標期間の平均値を上回る成果を挙げており高く評価できる。項目別評価 Aを支持する。</p> <p>－</p>
<p>2.環境情報の収集、整理及び提供 等に関する業務</p> <p>評価書(案)掲載箇所： 117ページ</p>	<p>－</p> <p>広報の取組として、「View LITE」・「View DEEP」の発写真等をもっと増やし 24 て分かりやすくするのか、それともコンテンツ数を今のような形で増やしていく のか、あるいは動画に力を入れていくのか。コンテンツの中身自体は担当の研究者 が考えたり、書いたりしなければならず、全部行うのは大変だと思うが、今後 の戦略はどう考えているか。それをサポートしてくれる人員は十分か。</p> <p>地理情報システム（GIS）等の成果を公開している点は評価できる。一方、その 25 データ管理・維持の方法や運用（主としてはコスト）が課題となっているケース もあることから、効果的な情報基盤のあり方について継続的に検討いただき たい。</p> <p>－</p> <p>概ね適切に実施されている。HPやSNSなどの活用については、審議会委員から 26 の助言を参考に、さらなる改善を目指していただくと良い。</p> <p>動画やWEBを利用した情報発信を精力的に推進しており評価できる。特に、 27 バックグラウンド知識の多寡に関わらず興味を持ってもらうために、国環研Viewを 2段構成にして、一般と専門家それぞれの読者にターゲットを絞った情報発信を 試みたことは素晴らしい試みと高く評価できる。項目別評価Aを支持する。</p>

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
	<p>資料の75枚目で「2. 環境情報の収集、整理及び提供などに関する業務」の評価がAとなっているが、BかB-といったところではないか。たとえば、資料2の78枚目のスライド、環境展望台について国立環境研究所にまず入って、トップページからどこに行くのかというのがすごく分かりにくい。また資料2の80枚目のスライドのYouTubeについては1年かけて1,000人しか増えていないというのは少ないと思う。</p> <p>内容が悪いわけではなく、国立環境研究所のYouTubeで、例えば先日出たミツバチがアリをはたき落とす動画は英語でもしっかりとテロップが入っているのが幸いし、国際誌の広報でも広く取り上げられている。しかしNIESのホームページからこれらの動画集にたどりつくのは困難。</p> <p>例えば、国立環境研究所のホームページのトップに、おすすめコンテンツという表示の真下に「パンフレット／動画」という項目があるが、そこには、YouTubeに登録するチャンネルがない。サイトの作り方、見やすいものになっているのかをきちんと評価している体制になっていないと考えられる。</p> <p>また、資料2の81枚目のスライドの「国環研View」について「環境儀」を休刊する代わりに「国環研View」を出しているのではないかと思われるが、一つの企画を止めて新しい企画を出すときに、過去の企画を評価した上でなされているのか、資料からは読み取れない。</p> <p>同じ学園都市にある産総研と比較すると、広報力・情報発信力は格段に劣勢だと考える。</p> <p>研究者のパワーをもっと一般に分かりやすく紹介できるような、広報にもプロフェッショナルな方を採用するような、そういう体制も今後考えていく必要があるだろう。</p>

28

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等	
3.気候変動適応に関する業務 評価書(案)掲載箇所： 142ページ	気候変動適応の地域計画の100%策定、ならびに地域センターが各自治体でほぼ設定されたことは素晴らしい成果だと思います。今後は、その中身についての検討が必要だと思うのですが、地域計画の内容が妥当であるかどうか等の検証は行う予定があるのでしょうか。	29
	APLATの閲覧数の増加、防災科学研究所との包括連携協定締結、「市民参加型」の調査の試行等、総合的な取組みの成果が認められる。	30
	スライド87下の国内21機関が参加する会議・研究会は貴重な情報共有の場であると考えます。例えば、外来生物（昆虫）などが国内に入ってきた場合、それから検出される病原体（ウイルスなど）の解析・モニタリングなどは将来のパンデミックに備えて重要と思われませんが、このような場が感染研や他の関連機関との調整・連携に活かされているのでしょうか。	31
	国立環境研究所が主体となって、主要な研究機関を集めた研究会による連携・情報共有が進められていること、また、地方公共団体等との連携により気候変動適用の取組みを活性化していることが高く評価される。	32
	目標とする事業を着実に推進している。特に、気候変動適応センターを核として国立研究機関や大学等との協力体制を構築するとともに、それを活用して地方公共団体や地域の企業・住民へのさまざまな情報提供や分析を実施しており、高く評価できる。項目別評価Aを支持する。	33
<b>第4. 業務運営の効率化に関する事項</b>		
1.業務改善の取組に関する事項 評価書(案)掲載箇所： 153ページ	一者応札の低減に向け、適切な取組みがなされている。	34
	概ね適切に取り組みがなされている。	35
	業務を着実に実施している。項目別評価Bを支持する。	36
	-	
	2.業務の電子化に関する事項 評価書(案)掲載箇所： 159ページ	クラウドストレージサービス（Box）の利用促進等により、テレワーク、非常時への対応が順次適切に進められている。
概ね適切に進められている。		38
業務を着実に実施している。項目別評価Bを支持する。		39
-		
<b>第5. 財務内容の改善に関する事項</b>		

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等		
評価書(案)掲載箇所： 167ページ	-		
	引き続き、バランスの取れた収入の確保に向けた努力がなされている。	40	
	-		
	-		
	外部資金の獲得も力を入れており、バランスの取れた収入が確保されている。	41	
		業務を着実に実施している。項目別評価Bを支持する。	42
	-		
<b>第6. その他の業務運営に関する重要事項</b>			
1.内部統制の推進	-		
評価書(案)掲載箇所： 176ページ	国環研のミッション、課題等を共有するため、全職員との意見交換の場を毎月開催していることは注目される取組みであるが、これを「統制」活動と呼ぶことには違和感がある。トップダウンで指導等を行うわけではないので、「統制活動を実施」という表現はなくても良いのではないか。	43	
	-		
	-		
	内部統制にかかる体制の整備はおおむね適切に見える。コンプライアンス研修の受講率が100%であることから、体制が機能していることがうかがえる。	44	
		業務を着実に実施している。項目別評価Bを支持する。	45
2.人事の最適化	-		
評価書(案)掲載箇所： 186ページ	計画的な取組みがなされており、女性の採用割合が増加したことも注目される。	46	
	-		
	スライド103に女性職員が占める割合を示していますが、貴研究所では目標値を設定されているのでしょうか。そうであれば目標値を併記していただけるとわかりやすいです。	47	
	裁量労働制の適用をポストドクに拡大したことは、研究環境の改善だけでなく、研究力向上にもつながると考えられる。高く評価する。テニユアトラックの活用も評価されるが、若手研究者の定義に37歳という上限については、ライフイベントによる休業期間なども考慮した柔軟性のある上限にするのが望ましい。	48	
		業務を着実に実施している。項目別評価Bを支持する。	49
3.情報セキュリティ対策等の推進	-		
評価書(案)掲載箇所： 193ページ	政府統一基準に準拠したセキュリティ対策が適切に図られている。	50	
	-		
	概ね適切である。	51	
		業務を着実に実施している。項目別評価Bを支持する。	52
4.施設・設備の整備及び管理運用	-		
評価書(案)掲載箇所： 197ページ	新研究本館の基本設計に着手し、ZEBキャンパスの実現に向け、着実にマスタープランの理念の具体化が図られている。	53	
	-		
	概ね適切である。	54	

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等	
	業務を着実に実施している。項目別評価Bを支持する。	55
	-	

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等	
5.安全衛生管理の充実 評価書(案)掲載箇所： 203ページ	-	
	計画的に適切な管理がなされている。	56
	-	
	-	
	概ね適切である。	57
6.業務における環境配慮等 評価書(案)掲載箇所： 212ページ	業務を着実に実施している。項目別評価Bを支持する。	58
	-	
	-	
	以前はほとんど国環研らしい取組がなかったが、この何年かは、コロナ対応や施設の更新という契機もあり、昨年度は自然共生サイトの認定もなさるなど率先取組が急速に充実している。昨年と同じB評価であるとしても、その内容は大きく向上していると高く評価できる。	59
	-	
	大幅なエネルギー消費量およびCO2排出量の削減への取り組み、自然共生サイトへの認定など、努力を高く評価します。	60
概ね適切である。	61	
業務を着実に実施している。なお、環境研究の中核機関であることを強く意識し、環境に配慮した業務の実施に努めており、環境省自然共生サイトの認定を受けるなど成果を挙げていることは高く評価できる。項目別評価Bを支持する。	62	
-		
-		
-		
-		
-		
-		